

六年生 国語 学習プリント

六年 組 名前



「たのしみは」

教科書 P 60

たちばな あけみ

■ 「たのしみは」では、江戸時代の歌人 橘 曙覧 という人が作った、「たのしみは」で始まり、「時」で結ぶ短歌の形をかりて、みなさんが実際に短歌を作る学習になります。まずは、橘 曙覧が作った短歌を声に出して読んでみましょう。

たのしみは妻子むつまじくうちつどひ頭ならべて物をくふ時(め) (こ) (か) (し) (め) (こ) (か) (し) (め)

たのしみは朝おきいでて昨日まで無かりし花の咲ける見る時み

※短歌の意味については、教科書P 61を見て確認しましょう。

このように「たのしみは」時」という短歌を作ります。その際には、次のように短歌の形である「五・七・五・七・七」の三十一音で作ります。

たのしみは □□□□□ □□□□□ ◇◇◇◇◇

○○○○○○○ ●●●●● 時

※音の数え方は、小さな「つ」例えば、楽器(がっき)の「つ」や、のばす音、例えばジュースの「ー」、その他に「ん」も一音と数えます。

■ 次の流れにそって、短歌を作ってみましょう。

1 「たのしみ」と言える事や、場面を決める

例えば、ついつい、時間がたつのも忘れて熱中してしまうことはありませんか。例えば、何日か前から、後何日寝れば、その日がくるのかなと、指を数えて待つ日はありませんか。

2 1で決めた「たのしみ」と言える事や、場面を短歌の音数を意識しなくてもよいので、一文として書き出す

例 たのしみは、夜寝る前に明日何をして友達と遊ぶのかを考える時

たのしみは

時

3 2で考えた一文を短歌の音数で整える

例 たのしみは 明日何して 遊ぼうと 夜寝る前に 考える 時

たのしみは

時

4 3で作った短歌を見直す

例 「友達と遊ぶことを考える」が楽しみであったのに、「友達」という言葉を入れられなかった。やはり「友達」をどこかに入れよう。

たのしみは

時

■ 「たのしみ」では、伝えたい思いや、そのときの様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を変えたりする工夫を学習しました。実際に短歌を作った感想を書いてみましょう。

Blank writing area with vertical lines for text.